

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

8

今月の話題

ドローンで空撮、AIで分析

ミカン収量ぴたり

三重の高専

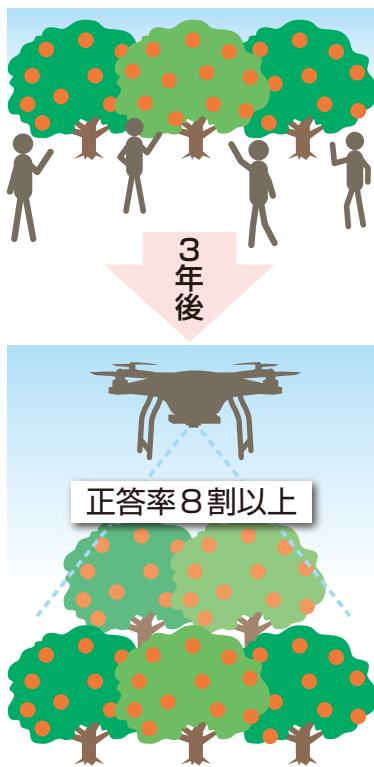
ドローン（小型無人飛行機）と人工知能（AI）を活用してミカンの収量を予測するシステム開発に、三重県の鳥羽商船高等専門学校が乗り出しました。ドローンで上空から撮影した園地の画像を基に、AIで木ごとの収量を予測します。

荷計画に生かすため、生産者が主体となって収穫前の秋口に収量調査を実施。1回の調査につき、生産者や

JAの営農指導員、普及指導員ら約150人が園地を回るなどしています。多くの人手が必要で負担が大きいことから、同校が県熊野農林事務所、県農業研究所紀南果樹研究室、NTTドコモと連携してシステムの開発を始めました。AIは、無料で誰でも使えるソフトウェア群を利用します。機械学習の手法の

予測の正答率は現在7割ですが、今後3年かけ人の目と同じレベルの8割以上に高め、実用化する計画です。毎年の収量調査で必要となる約150人の人手が、このシステムを使えば数人にまで減らせるといえます。

御浜町など県内屈指のミカン産地である紀南地域では、極早生品種の出



日欧EPA

今が旬
この言葉

日欧EPA

日欧経済連携協定（日欧EPA）は、日本とEU相互の貿易促進を目的として、幅広く経済的な関係の強化を目指すものとされています。7月17日に署名。国会審議を経て、来年初めにも発効する見通しです。日本は農林水産物のうち82%の関税を撤廃し、焦点となるチーズは大きな自由化を受け入れました。政府は同協定への対策として、生乳の奨励事業や畜産クラスター事業などを通じて国内農業の体質強化を目指すとしています。

一つ「ディープラーニング」（深層学習）を活用。ドローンで上空から園地の画像を撮影し、木ごとに収量の予測値や実数と共に学習させました。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

大豆の黄化および萎縮症状 カンキツヒメヨコバイの加害が原因

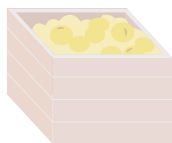
三重県農業研究所は、大豆圃場（ほじょう）で発生した葉が黄化して、株が萎縮する症状について、カンキツヒメヨコバイの吸汁によって発生することを明らかにしました。

カンキツヒメヨコバイは大豆の圃場で普通に発生する昆虫で、大豆の害虫とされていますが、具体的な被害については記録がありませんでした。また、これまで、同様の症状は県内の大豆圃場で発生したこともありましたが、原因は不明でした。

今回、明らかとなったカンキツヒメヨコバイによる症状は、実験の結果、この害虫が媒介するウイルス病によるものではなく、吸汁加害そのものによる

害については記録がありませんでした。また、これまで、同様の症状は県内の大豆圃場で発生したこともありましたが、原因は不明でした。

今回、明らかとなったカンキツヒメヨコバイによる症状は、実験の結果、この害虫が媒介するウイルス病によるものではなく、吸汁加害そのものによる



カンキツヒメヨコバイ成虫



現地大豆圃場で発生した萎縮症状

お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産物安全安心研究課 ☎ 0598-42-6360

県内NEWS

(日本農業新聞より)

■三重全域 障害者就労施設 GAP取得を支援 三重県

三重県は障害者就労施設のグローバル農業生産工程管理(GAP)認証取得に向けた支援を始める。7月5、6日には、日本のグローバルGAPの専門家、山野豊氏を講師に招いたセミナーを開催。GAP指導員や障害者就労施設の職員が参加し、基本的な知識について理解を深めた。今後は、8月、11月、12月にセミナーを行い、2019年1月に「三重なばな」での認証取得を目指す。19年2月には、東京都のオテル・ドゥ・ミクニで、GAP認証食材を使用した三重県フェアを開き、県産食材をPRしていく。

(2018/7/11 ワイド1東海)

■JAみえきた 女性部サロン人気

JAみえきた女性部内部支部が四日市市内部地区で月1度開く「カフェサロンうつべ」が、人気を集めている。10回目の開催となった7月上旬には、同地区在住者約80人が来店した。サロンは、同女性部が、主に高齢者が気軽に集える交流の場を提供することを目的に、昨年10月から毎月開いている。カフェでは女性部員の手作りケーキやコーヒーなどが振る舞われた他、うつべ在宅支援センターによる介護予防体操も行われた。近くに住みながらもなかなか交流の機会がない高齢者同士の憩いの場として定着しつつある。

(2018/7/11 ワイド2東海)

■JAいがふるさと 「美旗メロン」 直売甘味十分で開始

名張市産「美旗メロン」の販売が7月10日、JAいがふるさと南部カントリーエレベーターの直売所で始まった。「美旗メロン」はみずみずしい果汁と上品な香りが特徴の「アールス」。JA美旗メロン部会の山崎晃路会長(76)は「事前のチェックで糖度15以上の基準をクリアしたメロンだけを販売している。今年も多くの人に食べてほしい」と語る。

(2018/7/15 エリア東海)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を
応援します!

- ◆トラクターなどの
農業用機械の購入資金
- ◆栽培用ハウス・畜舎など
農業用施設の建設資金
- ◆その他農業経営に必要な資金

農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間/平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

※JAバンク利子補給・
当JA金利引き下げ後の
ご負担金利は0.2%を下
回らないように調整され
ます。
※イメージは実際とは異
なる場合がございます。
詳しくはお近くのJAバン
クまでお問い合わせくだ
さい。
※JAバンク保証料助成
により、実質保証料が0
円となります。

実質
保証料

0円

JAバンク利子補給制度(3年間)と
当JA金利引き下げ(2年間)措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利) 変動金利 年1%	-	(JAバンク利子補給・ 金利引き下げ) 年0.8%	=	実質 年 0.2%
---------------------	---	---------------------------------	---	---------------------

5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年5月現在